

みんなで支える生活交通サポート事業 アンケート・ヒアリング結果概要

第1回アンケート

- 目的：地域の移動に関するニーズや必要なサポート、ボランティア輸送の実施状況、市からの車両貸与に関心のある地域の把握
- 実施期間：令和8年1月16日～令和8年2月5日
- 配布団体：115（100コミ協、15ボランティア団体）
- 回答団体：91（78コミ協、13ボランティア団体） ※回答率79%

1. 地域の移動に関するニーズや必要なサポート

- ・移動が困難な高齢者等のいる地域は全体の約7割を占め、特に郊外の区が多いが、都心部及びその周辺（中央区、東区、西区）においても困っている地域は一定程度存在。
- ・用途としては「買い物」、「通院」に困っている地域が多い。
- ・サポート内容として、全市的にボランティアスタッフ等の介助車やタクシー活用の需要が高い一方、市による福祉バスの需要が少ない。

- ✓ 移動手段のニーズや必要なサポートは地域毎で異なる。
- ✓ 全体的な傾向として、タクシーやボランティア輸送に期待する地域が多い。

2. ボランティア輸送の実施状況

- ・実施中または検討に前向きな地域は約4割であり、郊外の区が多い。
- ・ボランティア輸送の課題として、事故があった場合の対応や責任問題、輸送にかかる費用（保険、燃料、謝礼）の負担、ボランティアドライバーや受付事務などの人的リソース不足が多く、そこへの支援を期待する地域が多い。
- ・「使える車がない」を課題とする地域は少なかったものの、車両の貸し出しやリース料の費用補助に期待する地域は多い。

- ✓ 郊外を中心にボランティア輸送に取り組もうとしている地域は多い。
- ✓ 事故対応や費用面の負担に加え、人手（ドライバーや事務員）がいないという課題を抱えている地域が多い。
- ✓ 必要な支援内容は、安全・安心面での支援が最も多いが、他の項目も満遍なく多くなっている。

3. 市からの車両貸与※への関心

※条件：ワンボックスカー（10人乗り）、週1～2回程度、1回5人以上乗車

- ・「利用したい」は34団体
- ・「利用したくない」58団体のうち、貸与は希望するが条件が厳しすぎるが13団体

- ✓ 「利用したい」または「車は貸してもらいたいが条件が厳しい」と回答した計47団体を対象に“車両貸与社会実験”の可能性を再調査

第2回アンケート

- 目的：車両貸与社会実験の条件設定および参加可能性のある団体の把握
- 実施期間：令和8年3月16日～令和8年4月17日
- 配布団体：47（40コミ協、7ボランティア団体）
- 回答団体：29（24コミ協、5ボランティア団体） ※回答率62%

・社会実験までにドライバー確保が「可能」又は「これから確保したい」が13団体

✓ 13団体を対象に対面ヒアリングで詳細な状況の聞き取りを実施し、社会実験実施体制の確認を行うとともに、実施条件を精査

対面ヒアリング

- 目的：車両貸与社会実験の実施に向けた条件等の精査
- 実施期間：令和8年5月18日～令和8年6月11日
- 対象団体：13（10コミ協、3ボランティア団体）

区	北区	東区	秋葉区	南区	西蒲区	合計
団体数	2	4	2	3	2	13

- ・既に福祉部所管の「住民主体の訪問型生活支援（訪問型サービスB）」の補助制度を活用するなどにより既に移動支援を行っている約半数の団体は、ドライバーや受付事務などの実施体制が整っている。ただし、ドライバーも高齢化しており、一定の年齢制限（例えば75歳未満）を設けた場合、実施可能団体は減少する。
- ・車両の大きさは、通院の支援を主体とする場合はドライバー1人に対して利用者1人が基本となることや、集落内の狭隘な道路状況、運転のしやすさなどから小型車を希望する団体が多い。
- ・運行頻度は、利用者ニーズとドライバー供給のマッチングが必要であり、定期運行や複数人相乗りを条件化すると利用しづらいという意見が多い。

✓ ヒアリング時点では、4団体が車両貸出に前向き。
✓ 社会実験の実施にあたっては、地域が移動支援を実施しやすい、より柔軟な条件に見直す必要がある。